

月報 2021年 3月31日 No.362

石城山岳会

3月号

四方通信

石城山岳会事務局編集

2月登山教室「八森山スノーシュー」

イエローフォールヘスノウハイク（裏磐梯）

和尚山と田人最高峰 802m無名ピークのウォーキング

遠矢ノ倉山（569m）

晴天の西大巔

山行報告 阿武隈山地北部

安達太良山 母成峠から杉田林

指導委員会 実践山スキー、スノーシュー研修会

安達太良山 母成峠から杉田林

縣の森と毘沙目木

十王・石尊山

天妃山（20.47m）

スキー合宿（猫魔・雄国山、西大巔）

拇峰（小屋集落から）1541.3m

大峠から拇峰へ（途中まで）

天元台から西吾妻山（2035m）

三森山、屹兎屋山、猫鳴山周回

磯原・石尊山（412m）

3月登山教室「田人中央山地」

第9回いわきの山を歩く会「田人中央山地」

横根山

2月登山教室「八森山スノーシュー」

2021年2月23日(火)

参加者 山岳会会員 13名・登山教室生 5名

2月の登山教室(14日)の前夜、初めてのスノーシューを履いての登山!!に、わくわく4割、どきどき6割で「早く寝ないと」と思いながらも布団に入ったのは22時30分過ぎ。そして、23時8分の震度5強の地震(この地震が、10年前の東日本大震災の余震とはびっくり!) 即、登山教室は中止、のラインが入る。スノーシューはお借りしたし、ゴーグル・冬用の手袋は購入したし、ストックはスノーバスケットに交換したし・・・後日、ぜひ再度計画していただきたい! と切に願っていると 23日にリベンジのお知らせが入り、やったー! でした。

当日は合同庁舎に集合し、4台の車に分乗、磐越道を会津方面に向けて出発。トンネルを抜けるごとに雪景色に変化。細谷登山口に到着すると少し吹雪いており、そんな中スノーシューを装着。柏村さんの事前アドバイスで、家で少し装着の予行練習はしてきたものの、かがむとお腹のお肉が邪魔で苦しいし、上手く金具が穴に入らず四苦八苦。装着するだけで筋肉痛になりそうでした。

8時40分、山に入る。左右の足の間隔を取って、引きずるように歩く事やヒールリフターの使い方を教えていただきながら、けっこう傾斜のある所を登っていく。ストックを使ってのヒールリフターの上げ下ろしが、なかなかスムーズにいかない。最初は周りの景色を見る余裕がなかったが、だんだんお天気も回復してきて、誰も踏み入れていない雪の上を歩いたり、楽しくなってくる。

スキーで登っていた渡辺さんより、スキー板の裏につける滑り止め“シール”の説明をしていただき、これでスキーを履いたまま登れることに納得。

休憩後、遭難時の“ビーコン”の使用方法や、雪に埋まった時の救助方法(実際、雪の中に、佐藤晴美さんが鼻と口を手で覆いうつ伏せになる) 「思ったより雪は重く、目の前が暗くなるのが怖かった。救出された後、太ももが真っ赤になっていた?!」そうです。埋没してから15分以上経過してしまうと、生存率が急激に低下するとの事。いつも積極的な晴美さんに拍手です。

昼食時、スノーシューを外して歩いてみると、雪の中をズブズブ沈んでしまい歩きにくい。スノーシューのすごさを実感。山で初めて食べるカップラーメンは、歩かないと冷えてくる体に美味しかった! スノーシューにも慣れ、眼下に広がる檜原湖を見ながらの下山は、気持ち良いものでした。

13時、細谷登山口に無事到着。天候不良の可能性があるので、目標の八森山までの3分の1の山行でしたが、初心者👉の私にとって、ちょうどよい距離でした。ご指導、ありがとうございました。

タイム

いわき市合同庁舎出発 6:00 ⇒ 磐越道磐梯高原IC ⇒ 細谷登山口 8:40 ⇒
958mピーク 10:30 ⇒ 雪山研修 11:10~11:45 ⇒ 昼食 12:00~12:30 ⇒
細谷登山口 13:00 ⇒ 磐越道磐梯高原IC ⇒ いわき市合同庁舎到着 15:30

(文責 猪狩由美)

“シール”の説明



遭難者救助



“ビーコン”発見



雪のテーブルでランチ



檜原湖を眼下に



イエローフォールへスノウハイク（裏磐梯）

2021年2月28日（日）

石城山岳会 総勢 11名

佐藤幸子、蛭田みち

イエローフォールに行くとき聞いた時、氷のつらさを思い出して、私には無理だと思いました。しかし、話をよく聞くと、リフトを利用し、スノーシューで、それ程時間をかけずに行けると聞き、プラス、メンバーも、山友が行くことを知り、チャレンジしてみようと思いました。駐車場に到着、リフトを2本乗りました。スノーシューで歩いて10分程たつと雪の上に、小さな足跡があり、皆さんに聞くと兎の足跡だとわかりました。本当に自然の中にいることがわかりました。その他、硫黄の匂いがしたり、煙が上がっていたり、雪崩の痕跡があったり、自然の驚異を見たり、感じる事が出来ました。スノーシューを体験してから、3年が経ちましたが今年、初めて自分1人で装着することができました。素手で装着するのは危険なので、薄めの手袋をかけて、装着しました。スノーシューの金具を穴に入れて、反対方向にひっぱり留め金をとめる。これを4回繰り返す。雪の降る時、外でスノーシューを履くことは、とても大変です。いわきは、雪がほとんど降らないので、スノーシューを履いて歩く機会もなく、いい経験ができたと思いました。山の上では、いつ、何があってもおかしくありません。この経験をわすれずに今後もいろいろチャレンジしたいと思いました。雪のため一面が真白でも、地図とコンパスを使い、道迷いせず、スノーシューでハイク出来ればいいなと思いました。

帰りは、樹林帯の中を下山しました。景色を楽しみながら足跡のない所を歩いたり地図読みをしたり、お話をしたり、とても楽しく過ごすことができました。

もう少しで行く時に乗ったリフトの近くかな、と思った時、急斜面が現れました。前の2人が、急斜面を降りるか、ほかのコースがあるか、模索時、私も他のコースを探してみようと思いました。足跡のない雪の上を歩いていた時、自分の足の下を見ると、小さい穴が開き地面が見えませんでした。春の陽気で雪が溶け、その穴に落ちそうになりました。一瞬の出来事で、他の人には、「ここに穴があり危ないです。」と言って終わりましたが、後で考えると、あの穴に落ちていたら、大怪我をしていたと思いました。

先輩方の地図読みの指導、実際コースの山の歩き方、スノーシューの歩き方、ロープワークの指導、山の天気予報、服装、荷物の準備、予想コースタイム、登山計画、座学で学んだこと全ての重要性を感じました。これからも、ご指導よろしくお願いします。

佐藤幸子

青空と目の前の銀世界に嬉しくてリフトから降りる時、早々と足を出しすぎまさかの着地失敗。滑りのスタートとなりました。ちょっとドキドキしていたら、.....、「何事も経験」と声をかけていただき、気を取り直してスノーシューを履き、雪景色に誘われて足を進めることができました。凍結している今だからこそ出来る銅沼の上を歩いて横断、コンパスと地図で方向確認しながらイエローフォールをめざしました。なんといまだに習得できてなくて、最初から指導していただき、地図読みが面白くなるのは、参加して学ぶことかなと実感しました。目的地では先に到着した会員さん達と合流となり賑やかになりました。それにしても冬とは思えない暑さです。太陽も皆さんの笑顔も眩しすぎです。K

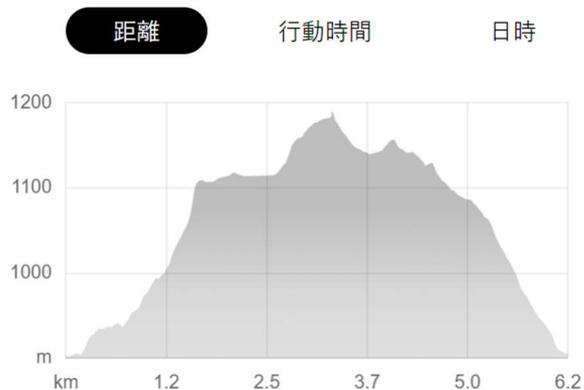
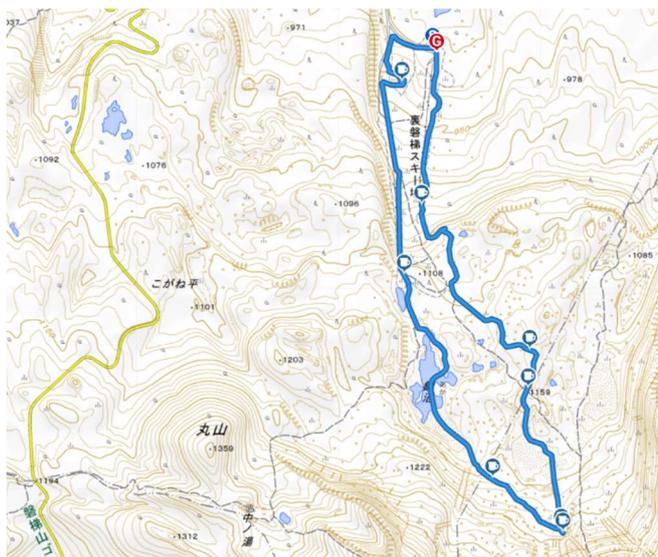
さんのおでこも凍ったらイエローフォールになりそうな「笑」汗がふき出していました。今年は雪が多く本物はガチガチの氷柱をさげてました。帰り道は飯豊山、吾妻山などが大きく見えて絶景です。参加出来てよかった

なあ〜って思いながらスキー場の東の林の中歩きで下山しました。スノーシューを貸して下さった会長、ありがとうございました。寒いからとこもっていた私を引っ張り出してくれた皆さんに感謝です。

蛭田みち

コースタイム

7:00 合同庁舎出発—9:30 裏磐梯スキー場駐車場到着—11:18 イエローフォール到着— 昼食 —12:00 イエローフォール出発—14:00 裏磐梯スキー場駐車場出発—17:00 合同庁舎到着





和尚山と田人最高峰 802m無名ピークのウォーキング

2021.2.28

秋葉、吉田、芳賀、長谷川、赤塚（将）（園）

北茨城市に所在し福島県に隣接する多賀山地最北のやま「和尚山」に登ってきました。
標高 650m超えの登山口から、フワフワの落ち葉を踏みしめ途中から何故か藪漕ぎを始めた A 氏の
の
後に続き、あっという間に 20 分弱で 803mの山頂へ。



下山後、いわき市に戻り、田人最高峰 802mの無名ピークを目指しました。
林道弥太郎線を歩き、途中からまたまた藪漕ぎをしながらの山登り。
25 分くらいで 802mの山頂へたどり着き、そしてお楽しみの「ティータイム」！！
下山は別ルートを歩き、林道弥太郎線に戻りました。
帰りに無名ピークということで A 氏により 802mになぞり、“ヤレヤレ山”と命名されました。

コースタイム：和尚山登山口 8：30⇒頂上 8：56

田人 802m峰登山口 9：43⇒頂上 10：04

文責：赤塚（園）

遠矢ノ倉山 (569m)

2021年3月6日(土) 太

遠矢ノ倉山は、好間川と小玉川に挟まれた山並み、水石山連峰の一峰だが、山名は三和町の郷土誌で初めて知った。地理院地図で調べると、三等三角点「登屋ノ倉」があること、山頂を通る尾根道があることがわかった。念のため航空写真を見ると、北側斜面の山林伐採が広範だったので、眺望が期待できると思い、登ってみた。

国道49号を磐越道の渡戸橋・渡戸トンネルの好間側手前約200mで右折し、永井地区方面へ。入口に通行止め表示があって、カーブの多い細い舗装路だが、尾根道のある峠まで問題なく行けた。

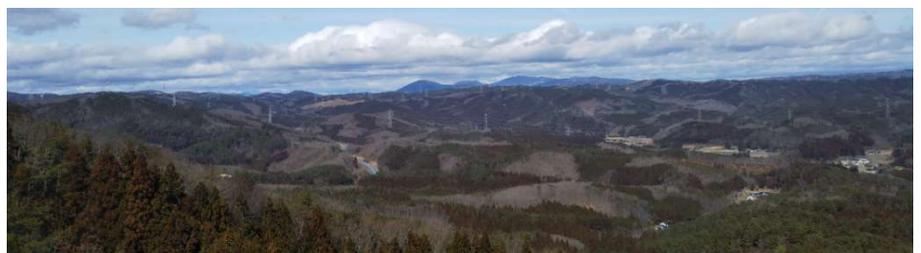
峠でアプリ地図をダウンロードして行動を開始。永井側に少し下った右側、松と雑木の林の中を尾根に向かう。尾根には土塁があり、道はあまり手入れされていないが、山頂まで土塁に沿って続いている。

最初の小ピークを過ぎると、北側に伐採地が広がり、視界が開けてくる。少し下って登り返した次の小ピークには、伐採地の急斜面に張り出した細い支尾根があり、そこで素晴らしい眺望が得られる。目の前に下永井地区の集落、その少し奥にガロ山、遠く青くかすむ太平洋、並ぶ二ツ箭山、屹兎屋山、鬼ヶ城山、万太郎山、矢大臣山、その奥の大滝根山。判別できないが一本山毛櫛、良々堂山なども見えているはず。このほか、山頂手前の急登では、南側に好間川と入遠野川に挟まれた山並み、湯ノ岳連峰の山々。三大明神山、二ツ石山、鶴石山などが近く、振り返れば、馬揚山、雨降山からずっと柴山まで、よく見える。山頂の三角点付近は、雑木で見晴らしは良くないが、十分に眺めを楽しませてくれる山だ。

文責：太

コースタイム

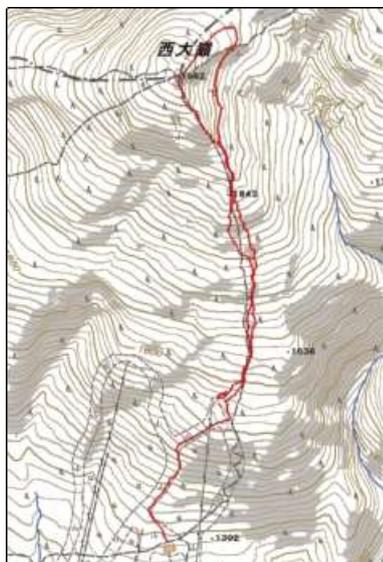
11:25 峠(登山口) → 12:05 遠矢ノ倉山(三等三角点「登屋ノ倉」) → 12:40 峠(登山口)



晴天の西大巔

2021年3月7日

小林憲兒



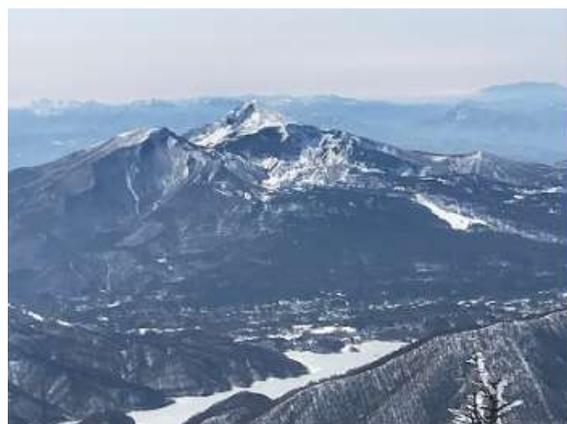
樹氷を見に西大巔に行ってきました。西吾妻山の樹氷も終わりそうで、日曜日は快晴、微風の予報。ただ、車が変な音がしているので点検してもらういとトランスミッションが終わりかけているらしい。どうしようかなと思っているところへ、蛭田ミチさんからスノーハイクをしたいので、車を提供するので運転して、とのありがたいお誘いを頂きました。

休暇村で蛭田さんとお友達を降ろし、グランデコへ。チケットを買ったり、ゴンドラに並んだりしてスタートが少し遅くなりましたが、登山の方もチラホラ見られました。アイゼンが多いようだったので、アイゼンを付けてスタートしました。

最初は樹林帯の中ですが、開けたところで振り返ると磐梯山がきれいに見えました。登るにつれ、磐梯山が下になり、これまで見た

ことがない景色に感動しました。コースタイムからは早いけどこれを登ると頂上かな？と感じさせる斜面を登りきると、山あるある、傾斜の緩い斜面を登り、一旦下って登り返してようやく西大巔へ到着しました。山頂からは安達太良山、磐梯山、飯豊山、朝日連峰、遠くに月山と絶景でした。特に、雪の飯豊山ドーンが素晴らかった。

樹氷はかなり細くなっていましたが、西大巔の北斜面には少し大きなものが残っていたので、今日はこ



までとしてゆっくりお昼ご飯を食べ、景色を堪能しました。下りは西吾妻山方向に少し下ってから西大巔を巻くトラバースルートで下山しました。

今日も良いお天気に恵まれ、雪山の魅力に嵌まりそうです。

湖まわりのスノーハイクも楽しかったそうです。良い一日になりました。

グランデコ第4リフト 10:30~12:00 西大巔
13:10~14:00 第4リフト 14:30 ゴンドラ頂上駅
(文責 小林憲兒)



山行報告 阿武隈山地北部

2021年3月7日(日)～8日(月) 秋葉信夫

過去に石城山岳会30周年記念事業(昭和61年、1986年)として3年がかりで阿武隈山地縦走(宮城県丸森町次郎太郎山～ニッ箭山)を行った。その頃に私は入会し途中から縦走に参加した。

あれから35年、あの山々はどうなっているだろうか。私の故郷周辺の山でもあるので縦走は無理でもピークだけでも行ってみたいとの思いに駆られた。

次郎太郎山 529m 三角点なし 3月7日



午前中に用事を済ませ、常磐道で新地インター、丸森町、登山口へ。

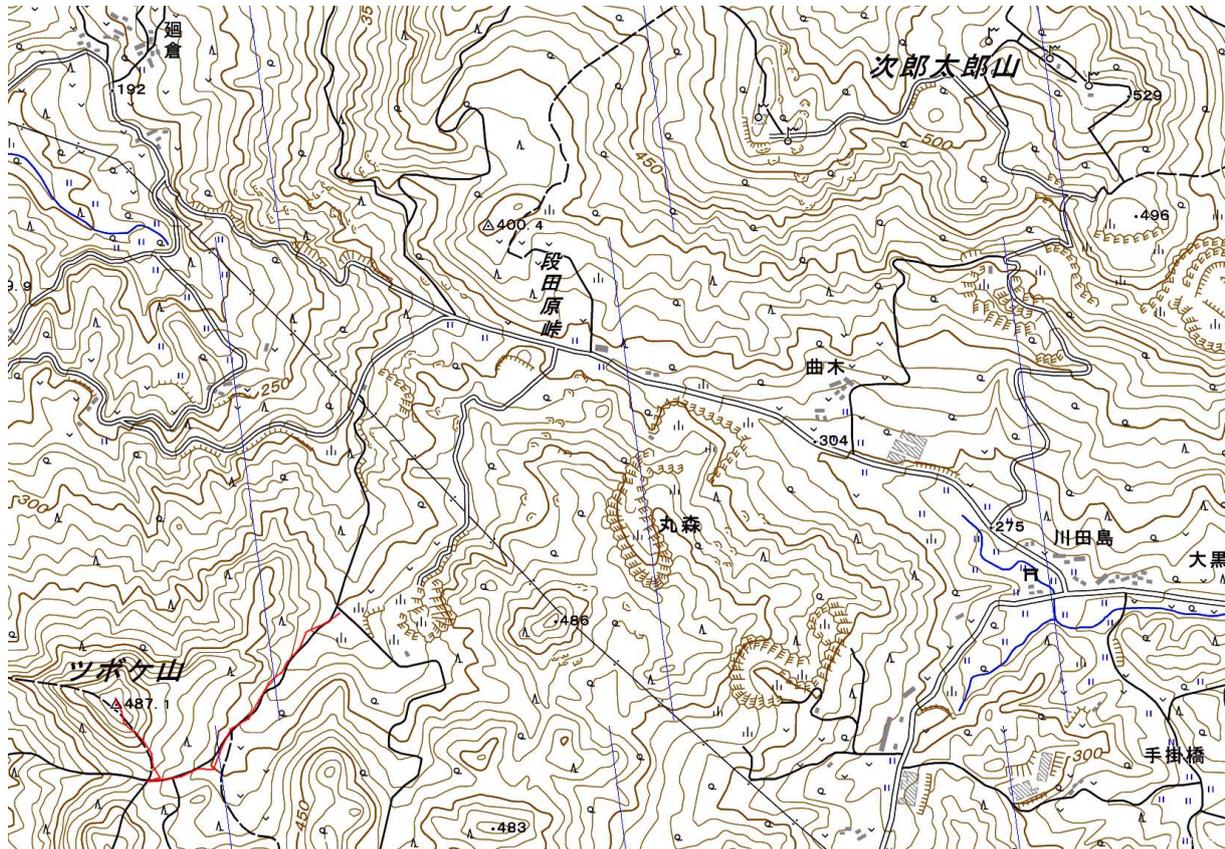
人名が付けてある珍しい山である。かつて広々とした牧草地だったところは採石場と化し、頂上にはアンテナが3基立ち、車で行けてしまいもはや登山の対象とはならない。

ツボケ山 487.07m



三等三角点(点名:壺毛山) 3月7日

地形図を見ているとカタカナ名前の山が気になった。三角点名は壺毛山となっている。古代民族ツボケ族の山という伝説があるそうだ。頂上には4つの祠があった。二つの山



は段田原峠を挟んで対峙している。ともに周囲に採石場がありダンプ等が行き来しているので、平日は避けて土・日等休日に訪れた方が良い。

和田山 335.4m 三等三角点 3月7日

小学校の同級生の一番の暴れん坊はS君、彼は和田山から通っていて如何にも山っ子という感じで、いつもからかわれていた(いまで言えばイジメか? 私もイジメた方だった。反省!)。でも人気者であった。彼も若くして逝ってしまった。彼の住んでいたところはどんな所だったのだろう。

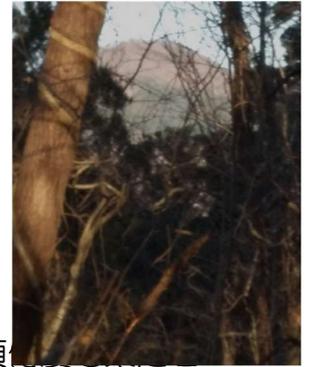
山舟生除石から蓼沼地区の作業道を溜池まで来るまで入れる。



*除石には親戚があり子供の頃とがある。

藪を避けながら歩きやすい所を行くと間もなく。三等三角点の頂上に着く。樹木に遮られて展望はないが、木々の間から先ほど登ったツボケ山を望むことができた。結構ピラミダルだ。

作業をしている人と話すと、この辺は一面畑だったが荒地になってしまって、桜を植えているとのこと。誰も登る人などいない和田山に来る人もいるんだとビックリされる。



登り 30分 下り 30分

山舟生羽山 457.46m 三等三角点 点名：山舟生 3月8日

伊達市梁川町山舟生にあり、うつくしま百名山に選定されている。羽山は各地にあり、便宜上山舟生羽山と呼ぶ。名前の通り羽根型の山である。

登山口の羽山神社の案内板によると、「ここにつたわる祭りは320年以上前から行われており昔からの伝統が良く残されている。

この祭りの中で繰り出される山車は絢らん豪華に装飾された7台の山車が、軽快なお囃子とともに地区内を練り歩く。

今も7台の山車が出て、往時の姿をとどめる羽山神社山車祭のおはやしは、梁川地方における貴重な民俗文化財である。なお、祭りばやしの山車祭りは、毎年11月の第一土曜日と日曜日に盛大におこなわれる」とある。

私は幼少期に宵祭りでこの山車を見たことがあり、今でもその様子が目に浮かぶ。是非もう一度見てみたい。





周遊コースが整備されており、出戸羽山、中羽山、奥羽山、三十三観音巨、巨石、麓社と奥社ともあり、この山が大切にされてきたことが分かる。

阿武隈盆地の下流の山であり。阿武隈盆地をうねる阿武隈川、白銀に輝く安達太良連峰、吾妻連峰、半田山から蔵王連峰、霊山等阿武隈の山々等を一望できる。私の原風景である。

生家から 1.5 km程のやながわ希望ヶ森公園駐車場で車中泊。

登り 60分 下り 40分



尖杜山（とげもりやま）293.98m 三等三角点 3月8日

伊達市梁川町希望ヶ森公園の傍の山である。私の母校梁川高校の応援歌に、「尖杜山のせいみちて～ 広瀬河畔の深みどり～」とあり、何度となく歌わされた。山学校で登ったことがあるがもう一度登ってみたい。

登山道は無いので、足駄木の溜池を過ぎたところから踏み跡らしきものを見つけ藪を漕ぐ。境界見出し線を辿り頂上へ。樹木に囲まれ展望はないがやり残した

仕事を終えたような満足感を得られた山行であった。

登り 40分 下り 30分



徳ヶ森 293.57m 四等三角点 3月8日

伊達市霊山町にある。近くに住んでいる義兄たちのグループが数年前から整備している



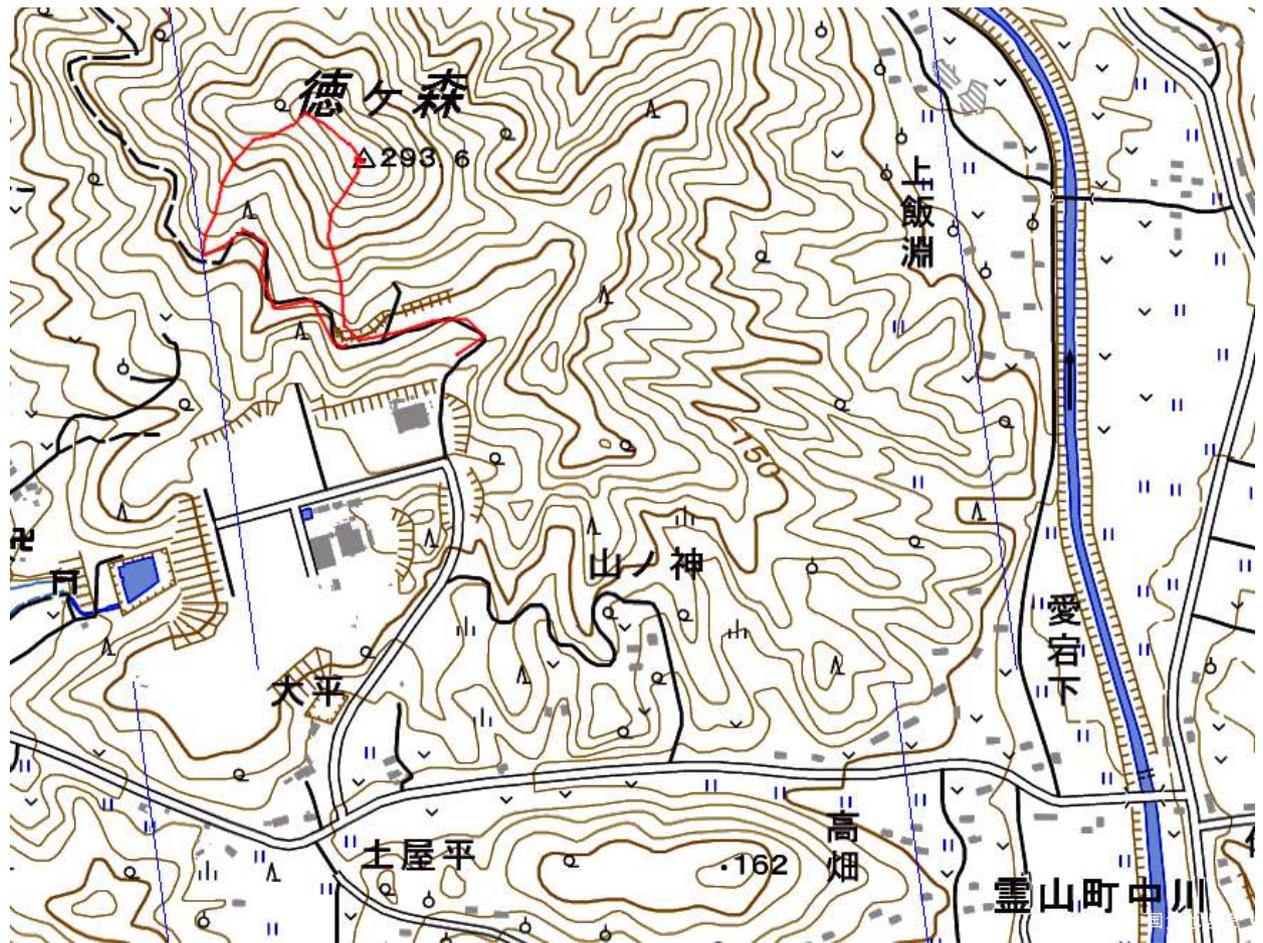
話を聞いていたので訪れてみたいと思っていた所である。
大きな工場の後ろが公園と駐車場になっており、登山口の表示がある。南登山口から急斜面を登り頂上に、

ベンチや東屋が設置され、3つの祠がある。

西登山口を經由して一周、こちらは藪だったが、毎年整備しているのでもう少し経てば歩きやすくなるだろう。

標高も低いし時間もかからない山なので、たかをくくっていたがどうしてどうして。安達太良、吾妻、半田山、萬歳楽山、蔵王、霊山、阿武隈の山波を一望できる絶好の展望台である。近くでは天井山、一貫森、女神山のゴツゴツがが登行意欲をかきたてる。お勧めの低山です。

(文責：秋葉信夫)



安達太良山 母成峠から杉田林

3月7日(日) 参加者 16名 石城山岳会 甲高、渋谷、柏村、渡辺敏夫

例年、指導委員会の実践山スキー・スノーシュー研修会を2月に実施していたが、コロナ禍のために実施を延期して、3月に実施することになった。石城山岳会からは、例年数多くの参加者があったが、今年は4名であった。石筵牧場近くの駐車場に集合して、母成峠の登山口へと向かった。最近暖かい日が続き道路の雪は完全に溶けて、スムーズに登山口へと着くことができた。準備をして出発した。16名の参加者のうち、スキーが6名、スノーシューが10名でした。最初登りの急斜面が現れるが、今年は積雪が多いといっても、最近の好天で大分雪が解け、雪が続いていない。途中でスキーをはずして登らなければならなかった。急斜面を登りきると防火帯のような灌木帯が続く。以前は藪がそれほどうるさくはなかったが、灌木が成長して藪がうるさい。さらに進み今日の予定の杉田林に到着したが、時間がまだ早いので先に進むことになった。



今日の天気は快晴、無風の最高の登山日和で、高度を上げると霧氷が日光に照らされてキラキラと美しい。杉田林の先の急斜面を登り、そこでお昼とした。さらに進み樹林帯が切れるところで、スノーシュー隊はここまでとし、スキー隊はもう少し進み見晴らしがきくところで引き返すことになった。

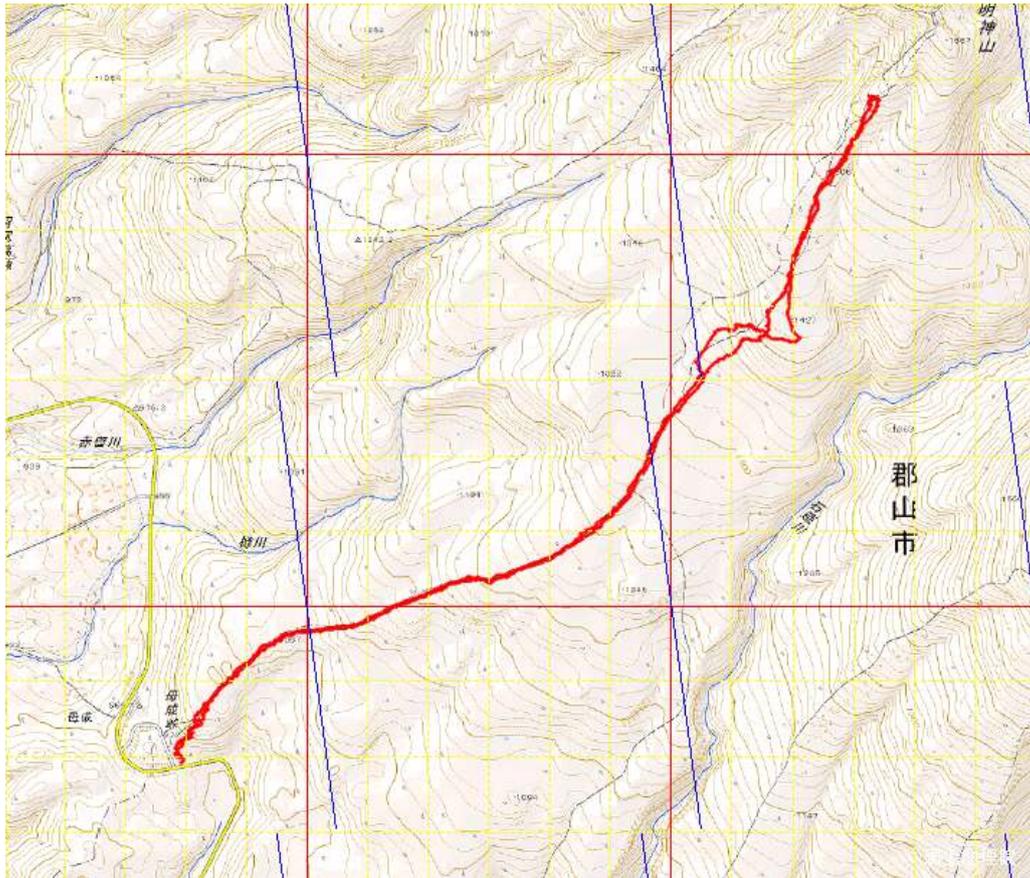
今日は春山の楽しいひと時を満喫することができた。

コースタイム

母成峠 9:10 → 杉田林 11:10 → 昼食 11:26
12:20 → 船明神山手前 12:56 13:08 → 母成峠
13:56



(文責：渡辺敏夫)



縣の森と毘沙目木

2021年3月11日(水)

秋葉 菊池 上遠野 青天目

ワンダーファーム手前の駐車場集合、常磐道を北上し浪江IC下り縣の森に向かう。

駐車場に車を止め、縣の森入口の道標から(羽黒登山口)歩き出す、農道らしき道を歩くが次の道標がなく進むこと5分ほど歩くと朽ち果てた鳥居の前に着く、ここで羽倉登山口を

整備された杉林と松の雑木林歩くこと約60分、少し視界が開けてくると鉄塔展望所に着いた。流石に展望所、見晴らしがよく快晴も手伝い太平洋が綺麗に見えました。

ここから、20分くらい歩くと羽倉登山口の分岐、更に歩くと縣の森山頂に着きました。(536.1m) ここには新しいベンチもあり眺



ここから更に20分ほどで毘沙門目木

(521.7m) 一等三角点に到着しました。

ここで昼食タイム、沢山頂いたので満腹でカロリーオーバー。

下山は雑木林の斜面の落葉を踏みしめながら、新緑と紅葉時も良いねと会話しながら軽快に下山する。大富林道に入ると林道が急変、登山道は一昨年の大水害の時の爪痕か、岩の露出と流木と倒木とすごい。また、登山道の崩落が数か所、迂回する事も有りました



登山道記録を参考に道迷いもせず、無事下山することが出来ました。

途中で、秋葉先生から急斜面をロープで降りる時のロープの結び方や降り方について教えて頂きました。

今回を振り返り毘沙門目木までは、登山道が整備されて歩きやすかったのですが、下山した(大富林道)コースは整備していないので大変でした。

羽倉登山 8:50~大穴登山口 9:05~鉄塔展望所 10:00~縣の森山頂 10:50~毘沙門目木三角点 11:20(昼食)~滝平分岐 12:00~大富林道分岐 12:45 大穴登山口 14:03~羽黒登山口 14:15

(文責: 青天目記安)



十王・石尊山

2021年3月14日（日） 太

日立市の十王パノラマ公園に駐車し、石尊山（386m）に登った。

正午過ぎに十王ダム湖畔のパノラマ公園に駐車到着、展望台に登ってから行動を開始。ダム湖畔に下りて、ハイキングマップどおりに砂沢町に抜けて進む。「谷道の滝」への分岐で滝に立ち寄った後は、延々と舗装道路を登る。時おり左側に市街地と海は見えるが、舗装のハイキングコースには少し飽きる。山頂が近くなると、テレビの中継局などのアンテナ群が見えてくる。民放中継局付近にベンチが置かれた広場があり、その先の林に「海軍航空隊員殉難之碑」が立つ。その奥の山頂には小部屋がのった望楼のような鉄塔が建ち、傍らに三等三角点「砂沢」（385.94m）があった。



下山前に見晴らし求めて北側樹林に入ると、唐突に送電線の下に出た。草木が麓の方まできれいに刈られていたので、少し歩きにくいが生電線に沿って下る。途中から鉄塔管理用道を進むと、谷道沢の小川に出会う。渡渉して小川に沿った緩やかな道を下ると、最初に立ち寄った谷道の滝に至る。

十王ダム湖畔まで来ると、ちょうど噴水が始まっていたので、それを楽しみながらパノラマ公園の駐車場に戻り、帰路につく。

文責：太

タイム

12:35 十王パノラマ公園（展望台）→12:55 谷道の滝分岐→13:05 谷道の滝
→13:20 谷道の滝分岐→14:00 石尊山→14:15 送電線下→14:35 谷道沢
→14:55 谷道の滝分岐→15:10 十王パノラマ公園（駐車場）



天妃山 (20.47m)

2021年3月14日(日) 太

茨城県で2番目に低い山と言われる天妃山に登った。天妃山は、東日本大震災で被災するまでであった、スパリゾートハワイアンズ系列「ホテル山海館」の裏山と言えば、思い当たる方も多いただろう。もともとは陸繋島だが、遠目にはこんもりとした海辺の森に見える。茨城県内有数のパワースポットでもある。

国道6号を野口雨情記念館から水戸方面へ200mのところ、信号機交差点に天妃山入口の石碑があり、海側へ150mほどのところに防災コミュニティセンターや神社の駐車場があるので利用する。

せっかくなので、北側から天妃山を一周。海岸防波堤から望めば、目の前に広々とした太平洋、北側は続く海岸線にニツ島、その先は五浦の岬。南側は大北川の河口の向こうに日立アルプス。足下には、海の中、波に洗われる岩に野口雨情の碑が立つ。「松に松風 磯原は 小磯の蔭にも 波か打つ」と野口雨情直筆が刻まれているらしい。磯の岩場に小さな石祠もある。さすが茨城百景、磯原海岸である。

ホテル跡入口の更地を過ぎて弟橘媛神社の石鳥居をくぐり、弟橘媛神社の石段を登る。境内に出ると、木造の拜殿の前に天妃山と神社の案内板がある。天妃山の名の由来は、水戸藩第2代藩主徳川光圀(水戸黄門)が航海の守護神「天妃神」を祀り、「天妃社」を創建したことによるとのこと。近くに徳川光圀や野口雨情が腰掛け、景色を眺めたという「腰掛け石」がある。なお、三等三角点「天妃山」は神社本殿の裏にある。

文責：太

タイム

15:50 国道6号・天妃山入口→15:55 野口雨情の石碑、山海館跡地→16:00 弟橘媛神社の石鳥居→16:05 天妃山(神社、西山公お腰掛石、三角点→16:10 北茨城市防災コミュニティセンター(東日本大震災記録碑、吉田松陰遊歴記念碑)



スキー合宿（猫魔・雄国山、西大巔）

2021年3月15日(月)～16日(火)

参加者 15・16日：下山田、秋葉、馬場、栗崎（透）、栗崎（容）、山中
16日：松本

郡山を過ぎたあたりから雨模様になり始め、車から見える猪苗代スキー場は下の方は一部ブッシュが出ており天候と雪のコンディションを心配しましたが、猫魔スキー場に着く前には雨もあがりスキー場の雪の量も問題ありませんでした。

センターハウスにてビーコンチェックをしてから登山届を提出し出発、リフトを2本乗り継いで猫魔ヶ岳近くのグレンデトップから登山を開始しました。すでに向かう方向が同じ一筋のトレースがありました。途中シールを張るまでもない5mくらいの登りが一部ありましたが雄国沼までは下りになります。樹林帯を滑りますが滑りやすい雪質だったので助かりました。木々には霧氷がついており幻想的な雰囲気の中を滑りました。雲の切れ間から日が差し込んだ景色も感動ものです。樹林が開けたところから見える雄国沼には全面に雪がかかっていた。冬も終わりに近づいているので根開きができている木もあります。



雄国沼休憩舎に到着。すでに1人先客がいました。先客は読書をしていてスキー登山に慣れている感が満載でした。栗崎さんが知っている人でブログ・FBでは有名な人とのこと、テレマークスキーを使用していてワカンを装備していました。ここで昼食です。定番のカップラーメンとパンを食べ、いただいた梅昆布茶では体が温まりました。

昼食後、シールを装着して雄国山に出発です。スキーアイゼンを今回初めて装着してみました。雪面にしっかりグリップしますが少し引っ掛かりが気になりました。樹林帯を登り尾根に出たら稜線です。稜線からの見晴らしは良く飯豊山などの山々の眺望が最高でした。



馬場さんいわく、何度もスキー登山をしているがいつもガスがかかっていたりして今日のような眺望は初めてだそうです。ラッキーです！

雄国山山頂でシールをはがしてラビスパに向けて下りです。樹林帯では結構小枝が落ちていて苦労しました。途中には小ピークがありここではシールを張りなおしての登山になりました。その後は沢の下りコースでしたが急斜面をすべり降り、後に落ちた小枝と杉の葉がたくさんある樹林帯の中を滑らなければならない洗礼を受けました。板に傷をつけたくなくスキーを担いで歩いた人が若干2名いました。ラビスパ駐車場に到着！秋葉さんが車をまわして待っていてくれました。

私たちがスキー登山をしているあいだ秋葉さんにはラビスパで温泉に入りスケッチをしてお待ちいただきましたが、それにしても長時間お待ちいただいてありがとうございました m(_ _)m

タイム：猫魔スキー場センターハウス9：30→グレンデトップ9：50→雄国沼休憩舎11：45

（昼食）12：15→雄国山13：15→ラビスパ駐車場15：30

宿は猪苗代町の「アットホームおおほり」、大当たりです！若女将がとにかく親切でフレンドリー。先ずはウエルカムコーヒーとチーズケーキでのおもてなしを受けました。夕食はとれたてワカサギ揚げたて天ぷら、国産牛肉・和牛のすき焼き、馬刺し、ぶりかま大根（サービス）等々美味しいおかずばかりでした。何と言ってもプラス1500円でお酒が飲み放題それも「飛露喜」「写楽」などの日本酒や焼酎の名酒ばかりです。酒飲みさん大満足デス！来シーズンからの合宿常宿に満場一致で決定しました！



部屋では反省会???

2日目朝、若女将手作りのバナナケーキのお土産をいただきお見送りを受けてグランデコスノーリゾートに出発しました。

グランデコスノーリゾートで松本さんが合流しました。スキーセンターに登山届を提出してから出発です。リフトを3本乗り継いでグレンデトップへ、そこから板にシールを張り登ります。グレンデからすぐの樹林帯を登りますが昨日の猫魔・雄国山より樹林が密集して傾斜もあったのでゆっくり登りはじめました。途中、栗崎さんのポールが折れるハプニング！ポールの長さが少し短くなりましたが何とか固定して使用しました。800mほど登ったあたりでスキーを履いたままでは登れない急登になりました。スキーを担いで10mほど登りましたが結構きつかった。



西大巔頂上まであと300mのところまで今日の登りは終わり、昼食にしました。ちょっとした広場になっていて眺望もよい場所です。昨日登った雄国山をはじめ猪苗代湖、磐梯山、檜原湖を望みながらの昼食・休憩をしました。しばらくすると小雪が降り出してきました。板からシールを剥がして下りの準備をしていたところでもたハプニングです。シールを剥がして立てかけずに置いていた山中のスキー板が斜面を滑り落ちてしまいました。幸い5mほど下で雪面に刺さっていましたが、栗崎さんが下りて取ってきていただくことになってしまいました。お手数をお掛けしました m(_ _)m いかなる場面でも油断大敵！ 大変反省しました！



ここからの下りは大変でした。樹林帯の木々の間隔が狭く傾斜があり、雪がスキー板に引っ掛かる雪質で滑るのに苦労しました。GPSで現在地を確認しながらの移動です。天気はグレンデに着く頃にみぞれになり、スキーセンターまでには雨に変わってしまいましたがぎりぎりセーフでした。

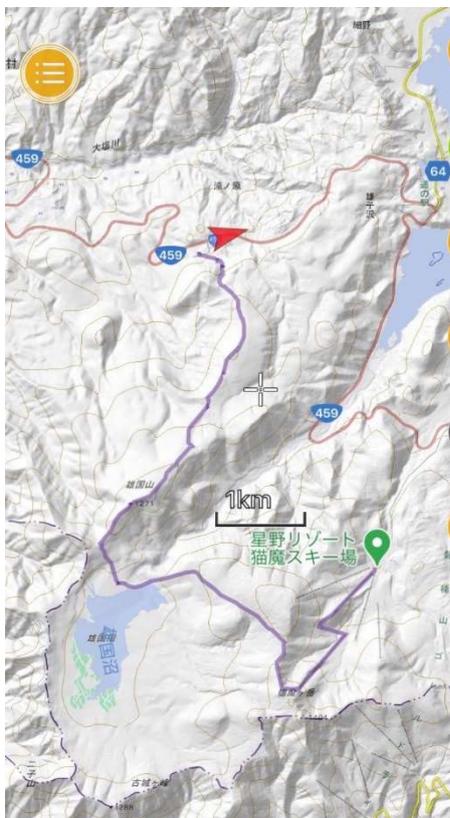
タイム：グランデコスノーリゾートスキーセンター9：15→グレンデトップ10：05→西大巔下12：00（昼食）12：30→スキーセンター14：10

スキーセンターではコーヒーと宿からいただいたバナナケーキ、秋葉さんが合宿中に描いたスケッチを鑑賞しながら休憩し合宿が終了しました。



この二日間大変楽しく有意義な時を過ごすことができました。スキー登山はスキーにシールを張って登り下りは剥がしてスキーで滑って降りるだけで通常の登山と同じでした。登りが辛く疲れても途中の景色や山頂に着いてからの眺望に感動し疲れが飛んでしまいます。スキーで下るときのスリルもおもしろさです。これからどんどんスキー登山の参加メンバーが増えてこの楽しさをたくさんの人と分かち合えればと思いました。

(文責：山中)



猫魔・雄国山



西大巔

梶峰（小屋集落から）1541.3m

3月17日（水）渡辺敏夫

日中飯森山の先にある梶峰にかねてより行きたいと思っていた。大峠から行くことを考えたが、とりあえず夏道沿いの小屋集落からのルートを選んだ。前日に登山口までに行った。丁度この日、山形地方は強い雨が降り、翌日の天気心配になった。朝、6時過ぎにスキーを履いて出発した。昨日まで降っていた雨が上がり天気は曇りがちなが、悪天候の心配はないようだ。林道終点まで2時間近くかかってしまった。そこから尾根の登りにかかるのだが、谷を渡ってルートを見つけるのに手間取り、大幅に時間をとってしまった。1102mの尾根筋に上がりようやく見晴らしがきくところに出るが、尾根沿いは上り下りが結構あり下山時が思いやられる。飯森山への分岐から梶峰方面に向かうが、しばらく下って登り返す。結構時間がかかり梶峰山頂への到着は1時過ぎになってしまった。帰りは



飯森山分岐あたりから梶峰を望む

自分のトレースを頼りに下山したが、トレースがほとんど見えない。雪面は前日の雨が凍り付いてバリバリで、そのような雪面ではスキーは横滑りしかできない。アップダウンのある所ではスキーを担いだ。コースを間違えて何か所も登り返しをしたので、下山は日没後になってしまった。このコースの梶峰へは、スキーよりもつば足かスノーシューの方がよかったようだ。

コースタイム

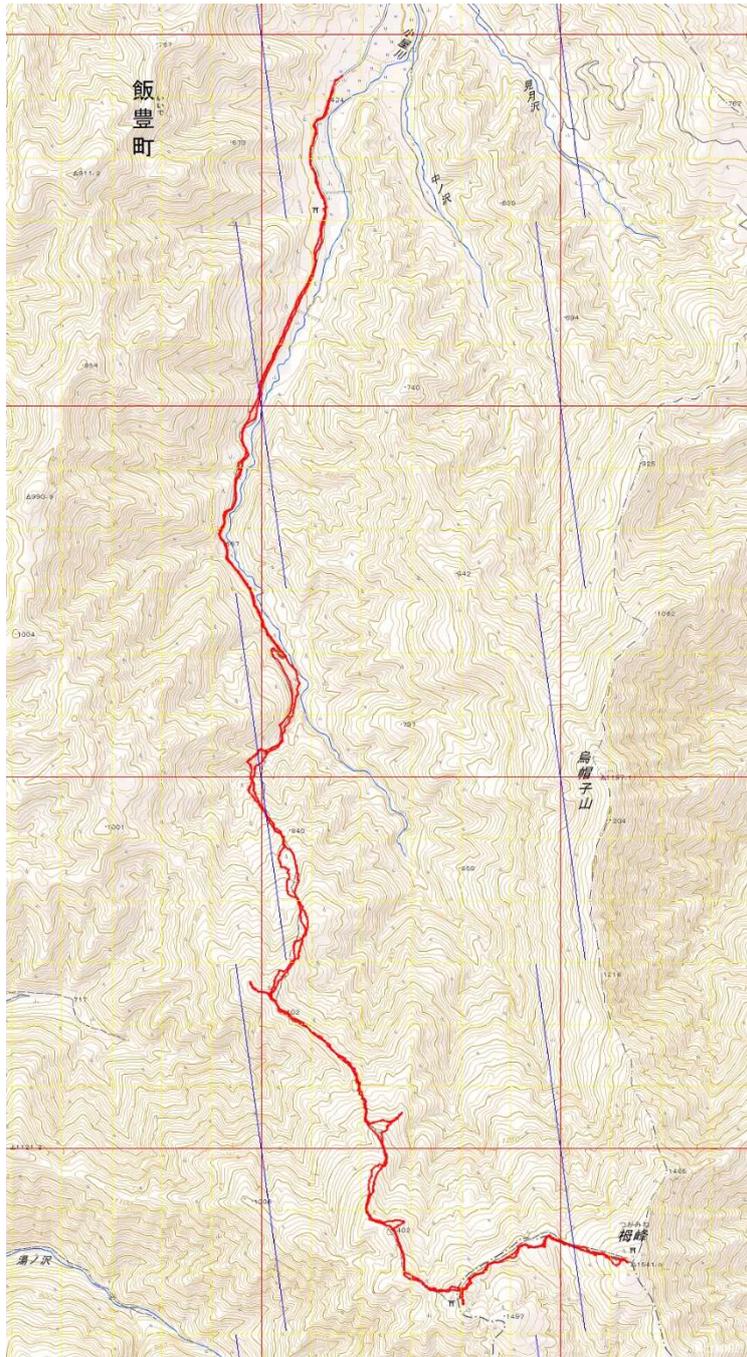
小屋登山口 6:24→林道終点 8:20→1102m 稜線 10:45→飯森山方面分岐 12:45→梶峰山頂 13:30 13:57→昼食 14:10 14:30→林道 17:33→登山口 18:47



梶峰山頂



梶峰山頂から飯森山方面を望む



大峠から柵峰へ（途中まで）

3月18日（木）渡辺敏夫



柵峰への稜線

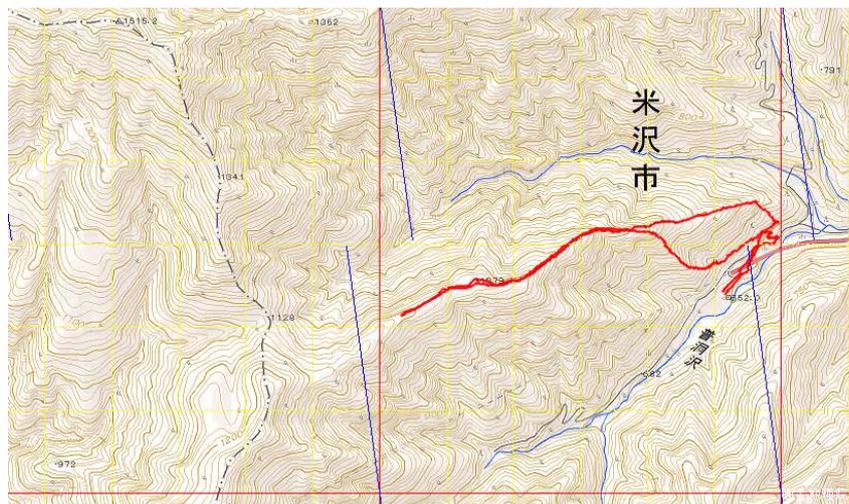


尾根筋の様子

前日の柵峰からの下山のあと次の目的の登山口の大峠に来た。前日の登山に時間がかかり、体が疲れていたため柵峰へはあきらめて、行けるところまで行こうとして、ゆっくりと出発した。丁度、麓では山林の伐採作業が行われていて、林道には重機の轍がついて歩きにくい。手前の支尾根から主尾根へと考えルートをとったが、支尾根は急でなおかつ雪が積っていないところが所々あり、主尾根に登るのに時間がかかってしまった。尾根はなだらかで登りやすいと思っていたら、20mほどの高さのがけが現れ。雪が解けて藪が現れている。藪が行く手を阻み、進むのに難儀をする。それからさらに進むと柵峰へ続く稜線が見え出す。しばらく進むと痩せ尾根が現れ、ここまでとして引き返した。尾根伝いは簡単かと思えたが、現実には結構な難路もあるようである。

コースタイム

登山口 7:41→稜線 9:25→最終点 10:57→登山口 13:35



天元台から西吾妻山（2035m）

3月19日（金）渡辺敏夫



西吾妻山を望む



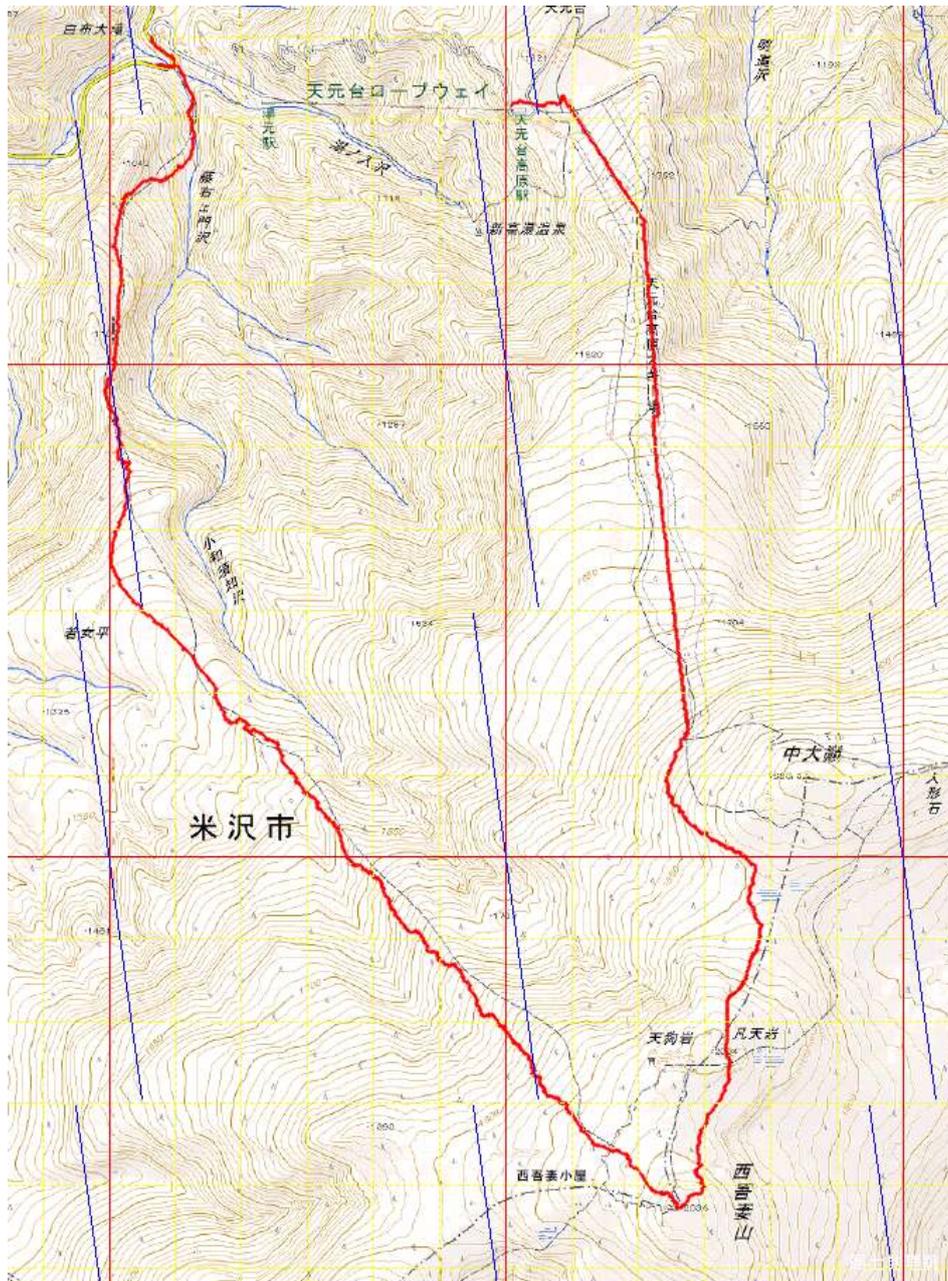
飯豊山と樹氷

大峠から、近くの道の駅で一晩を過ごし朝7時過ぎに天元台ロープウェイの湯本駅に来た。8時30分の始発のロープウェイとリフトを乗り継いで、最終リフトの下車地点へときた。風が穏やかで、天気は登山日和だ。西吾妻山へはリフト下車地点から誘導用のロープが張ってあり、それに沿って進む。稜線に出ると吾妻の山々が一望に見渡せる。すがすがしく気持ちが良い。登山者は1名が確認できるが、あまりいないようだ。間もなく西吾妻山の山頂と思われる地点へとくる。山頂は無雪期は深い樺の樹林に囲まれて見通しがきかないが、冬場はおそらく2~3mの積雪ですべてが雪に埋もれ、吾妻の山々から飯豊、朝日、蔵王などの周囲の山々が一望できる。シールをはずし若女平コースへと下る。下には西吾妻避難小屋が見えるが、小屋による必要もないので若女平の方へとまっすぐと下る。山頂付近は樹林の間の雪が風でえぐられ凹凸が激しく、滑るのに難儀をする。しばらく下って風のないところで昼食をとる。さ

らに下ると急斜面から緩斜面の若女平に出る。若女平はダケカンバの疎林で、気持ちの良い斜面だ。しばらく下ると痩せ尾根が現れる。このコースの中で注意を要する箇所だ。慎重を期しスキーを担いでつぼ足で通過する。林道に出る手前の急斜面も結構厄介で、スキーを履かずに担いで降りた。天気が良くスキーツアーを堪能できた。

コースタイム

リフト最終点 9:33→梵天岩 10:51→西吾妻山 11:14 11:38→昼食 11:58 12:21→痩せ尾根手前 13:41 13:55→白布温泉 14:49



三森山、屹兔屋山、猫鳴山周回

2021年3月20日

小林憲兒



三森神社から登ってみようと筒木原不動尊の登山口から三森山、屹兔屋山、猫鳴山と周回してきました。筒木原不動尊から三森神社への道は全面通行止め。入口から少し進んだところで大きな倒木が道に跨っていました。他にも沢から岩が崩れたようなところもあり、復旧には時間がかかりそうでした。

三森溪谷沿いの道は、ところどころ小さな

滝や緑色の淵など景色が楽しめましたが、長い。飽きてきたころ三森神社に到着しました。ここからはいきなりロープの急登ですが、手がかかり、足場もたくさんあり見た目ほどではありませんでした。

今日はあいにくの曇り空でしたが、三森山の山頂から景色を楽しんだ後、猫鳴山に向けてスタートです。途中でトレランの方数名とすれ違いましたが、どうもすれ違う手前でコースを間違えたようで、以前に三森山へ連れて行ってもらった時の林道に出てしまいました。林道終点で本来のルートと合流し猫鳴山へ向かいました。猫鳴山は展望もないので帰りに立寄ることにして屹兔屋山へ向かいました。屹兔屋山で昼食後、猫鳴山



へ行き、登って来た林道を千軒平までテクテクと下りました。ため池の横の林道を少し歩き、小さな川を渡渉してまずは三森山登山口へ向かいましたが、思いのほか稜線に出るまでキツイ登りでしたが、登山道は良く整備されており歩きやすい



路でした。三森山への分岐を過ぎると一転して倒木などが多数あり、アスレチックなルートでした。途中、登山道を見失うこと数度、なんとか三森溪谷沿いの道に出て駐車場まで戻ることができました。安易に考えていましたが、思っていたより長いルートで、疲れました。

筒木原不動尊登山口 7:15~8:20 三森神社 8:30~9:30 三森山 9:40~12:20 屹兔屋山 13:00~13:50 猫鳴山~15:00 千軒平~15:35 三森山登山口~16:50 筒木原不動尊登山口

(文責 小林憲兒)

磯原・石尊山（412m）

2021年3月24日（日） 太

北茨城市磯原町の石尊山を、男坂登山口から登り、十里上峠（とりあげとうげ）まで尾根歩き、引き返して金山岳に立ち寄り、金山尾根から女坂登山口に下った。

石尊山の登山口に駐車場はないので、路側帯や路肩を使って駐車。男坂登山口は、集落の奥まった場所にある。民家入口まで舗装だが、その先は未舗装で作業道のような道である。登っていくと、三合目の大塚西明寺跡には観音堂がある。その左奥「此より石尊山へ」の石柱から杉林の中を登っていく。七合目まで登ると、「からす天狗」の石碑があり、その先の見晴らし台では、北側はいわき市勿来地区まで、東側は北茨城市街地が、見渡せる。見晴らし台のすぐ上で女坂コース登りと合流し、200mほどで石尊山の山頂に至る。山頂には石祠のほか山名・案内板などがある。

石尊山から十里上峠（484m）までは尾根歩きだが、ほとんど眺望はない。折り返して金山岳分岐まで戻る。分岐から金山岳まで進むと、山頂には三等三角点（点名「金山岳」458m）と山名・案内板がある。眺望が良いのはその先、山頂を少し下ったところに見晴らし台がある。北茨城市の平野部を足下に、その向こうに太平洋が大きく広がる爽快な景色を楽しめる。

急な金山尾根を下ると、道は作業道になり、折り返しながら高度を下げて行く。杉林を進むと、途中に渡渉点が一か所あり、渡ると女坂コース下りと合流し、すぐに舗装車道に面した女坂登山口に出る。

文責：太

タイム

12：30 男坂登山口→13：30 石尊山→13：50 金山岳→14：10 十里上峠→15：30 女坂登山口



3月登山教室「田人中央山地」

2021年3月28日(日)

参加者：登山教室6名、
山岳会他一般の方々57名
報告者 小松順子



3月登山教室は田人中央山地にある「焼倉」縦走の予定でしたが、午後大雨予報が出ている為、「焼倉」ピストンとなる。

AM8:30 田人支所脇いちご園駐車場へ集合、山岳会の方の車に便乗させて頂き「いわき中央牧場」到着。今回は福島県山岳連盟いわき支部（石城山岳会、勿来山岳会、藤原山岳会）主催の第9回「いわきの山を歩く会」として一般の方々にも呼びかけをし、総勢63名の大所帯となる。

AM9:30 秋葉校長先生を先頭に老若男女、皆マスクをして、大きな声で話す人も無く、整然と「焼倉」目指して歩き始める。杉の植林地を登りAM9:55 前方に巨石群が現れる、「大岩でクライミングをした」と話しているのを小耳にはさみ、山岳会の方と二人で大岩まで見に行ってみると、足がすくむような大岩で『神業への挑戦をする方もいるのだなー』と感心した。

暫く登ると、タラの芽やフキノトウの群生や可愛いかたくりの花に会え、AM10:30「焼倉」頂上740mへ登頂。

山岳会の方々が毎年藪刈りし、きれいにしてくれている所にリュックをおろして大休憩とする。

頂上には150mもの高さの風力検査機が設置されており、その3倍もの高さの風力発電機が、今後、三大明神から仏具山等に設置予定と、秋葉校長先生からの話しを聞き、今、頂上から見ている山々のきれいな稜線は、将来様変わりしてしまうのかと、寂しい気持ちになった。また、このきれいな自然が壊されてしまう事は、次の世代の人たちにとっても残念な事なのではないだろうかと考えさせられた。

AM11:00 下山、今にも雨が降ってきそうな雲行きとなるが、気温が高く蒸し暑いのでレインウエアの下だけ身に付ける。下りは別ルート歩いたので、登りでは見られなかった、木に括り付けられているペットボトルを発見、スズメバチのトラップ(仕掛け)で、酒と酢と砂糖が入っていると先輩登山者が教えてくれた。ぽつりぽつり降る雨の中をゆっくりと小川のせせらぎを楽しみながら歩きAM11:55「いわき中央牧場」到着。

12:20 桜満開のいちご園駐車場で解散となる。

今回は、2月登山教室での雪山の辛い体験から一転して、春爛漫ルンルン気分の楽しい山行、こんなにも季節の移り変わりをはっきりと感じた事は、今までにはありませんでした。登山教室最高です！1年間、沢山の経験をさせて頂き、秋葉校長先生、下山田会長、山岳会の皆様本当に有難うございました。

【コースタイム】AM9:30 中央牧場→AM9:55 巨石群→AM10:30 焼倉山頂休憩→AM11:55 下山→AM11:55 中央牧場



ルート地図



長蛇の列で出発



巨石群



かたくりの花

第9回いわきの山を歩く会「田人中央山地」

2021年3月28日(日)

一般参加者・石城山岳会会員・登山教室生など63人

福島県山岳連盟いわき支部(石城山岳会・勿来岳友会・藤原山の会)が毎年3月の最終日曜日に行っている「いわきの山を歩く会」が今年も3月28日に行われた。

9回目を迎えた今回は、近年山林開発が著しい田人の里山を縦走する約6キロ、標高差約500mのルート、交差縦走(2チームに分かれてルートの両端から登り始め、途中ですれ違う縦走)する予定だったが、当日の午後から雨予報が出ていたため急遽ルートを変更。いわき中央牧場から焼倉山に登るルートで実施された。

集合場所となった田人いちご園脇の駐車場には事前の告知効果か、早朝から多くの参加者が集合。当山岳会の会員、登山教室生や市内の登山愛好会メンバー、そして一般参加者など、総勢63人の参加となった。下山田会長のあいさつの後、それぞれの車に乗り合わせ出発地点のいわき中央牧場まで移動、暖かい陽気の中、色とりどりのウェアとザックの列が焼倉山の頂上を目指した。

途中には山肌に大きな石が立ち並ぶ巨石群、遠くの山並みが望める場所などもあり、参加者たちはそれぞれに春の山を楽しんでいた。

そろそろ時期的には春らしい花々なども楽しめるはずであったが、残念ながら今年はカタクリの花がすこし見られただけだった。

その代わりにとてもいわんばかりに道端には若干開き気味ではあったが、フキノトウが数多く見られ、袋にたくさん収穫して持ち帰る参加者の姿も見られた。

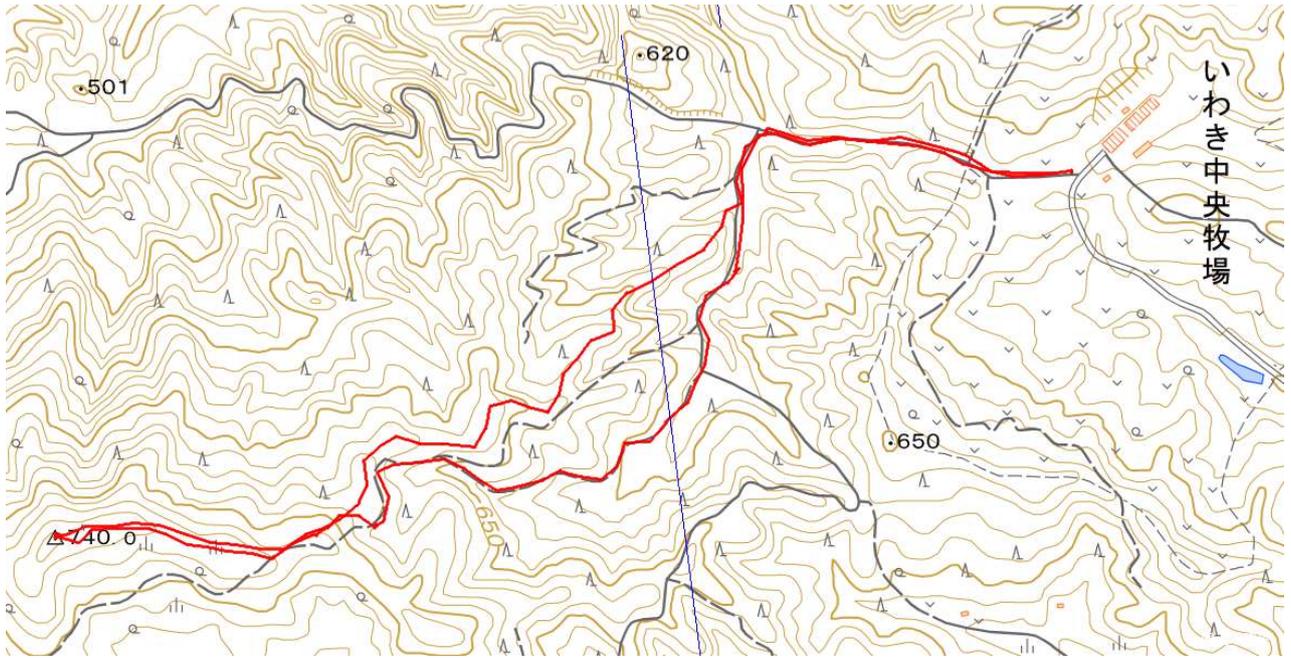
焼倉山の頂上には、風況観測鉄塔と観測機器類が所狭しに並べられていたため、機器類の周りでしばし大休憩をとったあと下山を開始。

来た道とは別のルートを下り、伐採と植林で人の手が入った山肌なども見ながら昼頃にいわき中央牧場へ到着。

天候悪化の予報による急なルートの変更とはなったが、事故やけが人などもなく全員無事に下山し、田人いちご園脇の駐車場で解散となった。

(文責：長谷川 裕)





横根山

2021年4月2日

菊池由紀子・西由紀江・秋葉信夫



(画責：秋葉信夫)